

第1回 大門まちづくり共創会議 議事録

日 時：令和7年4月21日 18～20時

場 所：えんぱーく 401 会議室

次 第：①開会、あいさつ（㈱しおじり街元気カンパニー）

②共創会議の役割について（㈱しおじり街元気カンパニー）

③大門地区の取組状況について（塩尻市商工課）

④まちづくり勉強会の復習（公益社団法人 全国市街地再開発協会）

⑤ディスカッション

⑥アンケート記入、閉会

⑦名刺交換等交流時間

——以下、ディスカッション内容——

■司会

・前半（共創会議、現在の取組、街づくり勉強会の復習）を聞いての感想・疑問、今自分がやっていること、思いなどなんでも良いので話してみましょう。

（ディスカッションのファシリテーターは全国再開発協会高野ジェネラルマネージャー（以下高野 GM）が担当。）

■参加者 A

・高校教員をやっている。塩尻や大門について、駅の移転などいろいろな歴史があることを調べて知っている。ハローワークにも行ったり、「子どもシオジリ」、玄蕃まつり等に参加したりもした。子どもたちが元気で楽しい街だと感じた。

・大門地区をこれからどうやって活性化していくか考える時、ぜひ、高校生を有効活用してほしい。今年、授業の中で空き店舗を使ったワインカステラ販売の話が進んでいる。50日も持つカステラなので、週1からでも朝市という形でやっていきたい。塩尻市出身の生徒もたくさんいるので、そういう形で大門の活性化を担えればよいと思う。

→（高野 GM）

・ぜひやってほしい。どこの行政も高齢者支援、子育て支援は上位計画に掲げて手厚いが、Teenager へのアクションはない。おそらく何を考えているかわからない、タッチする場面がないから。5年後、10年後に最大のマーケットになるはずの層。「この街に思い出があるから暮らしたい、マンションを買いたい、働きたい」と思ってもらえるようなまちづくりの意識は、10代の頃に植え付けなくては間に合わない。この街で感受性豊かなときに経験したことがあるから「この街で何かやろう、結婚式の二次会をやろう」ということが発生する。そうでなければ松本や東京に行ってしまう。

- ・今は 100 円の単価かもしれないけれど、ぜひ皆さんにも 5 年後 10 年後のマーケットが大きくなることを頭に入れて取り組んでほしい。新 1 年生は毎年必ず発生するので、そこを取りこぼさないように。
- ・この話に協力できるよ、という人がいればぜひ協力してほしい。新潟県新発田市の学生が運営するカフェは需要が高い取組。ぜひやってほしい。

■参加者 B

- ・シェアハウスの管理人をしている。地域おこし協力隊の活動の中で関連人口・移住定住の方と街を結びつける活動をしていた。エリアマネジメントというテーマが大きすぎて自分や自分たちには何ができるのかわからないところもある。
- ・塩尻でいろいろなイベントを始めてみようという人は多いけれど、人口が少なく活性化していないところで何かを始めても、客がいないので継続できず、やめてしまうということが続いている。その辺を変えてかなくては、やってみたい人も出てこないし続かなくなってしまう。どう対処したらいいか。
- ・自分自身が食べていける、続けていけるビジネスができるのであれば、リスクを冒してもできる。継続的に続けていくことによって魅力的なお店が増えていく未来が想像できるが、始めても儲けにならないとなると、ビジネスと理念の両立が難しい。どう改善していけばいいのか、自分たちのビジネスも含めて課題と考えている。

→ (高野 GM)

- ・明日から急に儲かるということとはできないけれど、少なくとも今日の会議のようなスタートで、街の人同士でやっと顔が見える関係がスタートできた。いきなり大会社やインバウンドといった大きい所を狙うより、地域の人に使ってもらえるようにスタートできないか。地域の人向けに、最初のうちは、市の支援メニューを利活用して続けていく。
- ・今日の会議でシェアハウスの存在を初めて知ったという方もいると思う。街の人も使えるゲストハウスということなので、街の人が見学に来るとか、シェアハウスがメインで、ゲストハウス機能もある。
- ・大学と連携して、「家賃は少し高いが町中でやりたいことができる」という売り方で大学にチラシを入れてやるという手もある。そういう話をグループになったときに話していきたい。

■参加者 C

- ・普段東京と塩尻で二拠点居住をしており、最近は月 3 週間くらいを塩尻で過ごしている。職場はスナバ。贄川のシェアハウスに暮らしている。
- ・大門と檐川でイベントや地域の情報が分断していると感じる。大門にいと檐川の情報が、檐川にいと大門の情報が入ってこない。情報の分断、情報へのアクセスのし辛さに課題を感じているので、Google マップや Wikipedia の書き込みはやっていこうと思って

いる。まずは企業や地域のプレイヤーの情報公開を当たり前にやっていくことが必要なのではないか。

- ・今回のエリアマネジメントについても情報をオープンにしていくことが必要。情報をオープンにすれば知ってもらうこともできて、知る人が増えたとこの場に参加する人も増えるかなと思うがどう考えるか。

→ (高野 GM)

- ・仕事で横須賀と葉山に行ってきた。どの町にも紙のガイドマップがあるが、紙のマップは刷った分しか届かない。依然として一定の年代にはマップは必要だが、若い人たちはどこにお店があるかなどの情報はスマホの中の情報だけで事足りる。
- ・この街で SNS を使って情報発信や PR をしている人がいればぜひ教えてほしい。それをオフィシャル化するなど、大門の情報を SNS で発信できる仕組みシステム、その担い手を探してほしい。もし今日集まった中にすでにやっている人がいれば、この会議についても「こんな会がスタートしたよ」という話をしてもらえれば、広がっていく。我々世代の紙の情報とは違い、瞬時に広がる。本当に一つのきっかけだけでいきなりほかの街やあるいは世界中から集まってくるかもしれない。
- ・可能であれば次世代に向けた情報発信ツールを活用した取り組みを検討するチームができたらいと思う。

→ (参加者 C)

- ・ちょうど隣の席になった方が、関係人口ポータル「のりしお」をやっている人で「一緒にやりませんか」と声をかけてもらった。

→ (高野 GM)

- ・できれば若い人に情報発信をやってもらいたいけれど、若い人というのは受け狙いをしてしまい、公序良俗に反したり著作権を侵害した音楽を使ったり馬鹿にしたりと、負のイメージの者を作ってしまうことがある。若い人にも参加してもらいつつも、しっかりとチェックをしながら情報公開をしていくという形が必要かもしれない。ともあれスタートできるのであればやってほしい。

■参加者 D

- ・普段は千葉県船橋市で、飲食系(チーズ・牛乳)で働いている。もともと塩尻市生まれ、志学館高校出身。将来は街づくりに関わりたいと思いながら千葉に出て、あと2・3年したら帰ってきて、大門商店街でカフェを作りたいと思っている。
- ・今26歳。若者がなぜ塩尻を出ていくのかというと、魅力に欠けるからではないか。地元の友達に塩尻はどんなところかと聞くと「何もない」というマイナスのイメージが多い。
- ・お店をやるとしたら、地元の人が好きなお店作りを最初にやっていきたい。地元の人が勧めたいと思うお店になれば、その思いから周りの住民、県外の人などの友達に勧めて生き広がっていき、そこから活性化が進んでいくのではないか。

- ・飲食も含め消費者の消費傾向が、賃金低迷と物価高の中でお金をかけるものとかけないものにメリハリをつけるようになっていく。生半可な気持ちで流行り物を売ったとしても、一時的にはやるけれど持続性がない。
- ・今働いているお店は SNS を一切やらず、口コミだけで集客をしており、その信頼が逆に客を集めることを体現している。自分のお店を持つことになったとき、地元の人が好きだと思える店を作っていきたいと思っている。
- ・共創会議についても、こういう場があるということを周りに広めていきたいし、皆さんと一緒に取り組んでいきたい。

→ (高野 GM)

- ・自身も 35 歳の時に会社員をやりながらカフェを作った。1 年くらい経営して他店舗展開しようと思ったが、拘り過ぎてコストが増大し回らなくなってしまった。地元の美さんに愛されることを考えず、自分のやりたいことばかりやってしまったせいで失敗した。
- ・鳥取はスタバが最後にできた県だが、スタバの代わりに砂場コーヒーという店がある。スタバができて砂場コーヒーに行く人が多い。スタバはどこにでもあるけれど砂場コーヒーはそこにしかない。地元で愛されている。そんなブランドを作っていけるとよい。塩尻に行かないと飲めないものがあつたりするような。

■参加者 E

- ・参加者 B と一緒に合同会社をやっているのと、地域の人事部をメインに株式会社をやっている。話を聞いていて感じたことと、これから自分がやろうと思っていることを話す。
- ・地域の人事部という事業のほうでは、高校生や大学生、関係人口、市外から塩尻に興味を持ってくる人のサポートをしている。ちなみに塩尻市外出身の人はこの場にどのくらいいるか。(→半分くらい) 自身も移住者で、塩尻市は市外から魅力を感じ、やってみたいことがあつてきたという人がすごくたくさんいる。塩尻出身の若者で、思いをもって塩尻でやりたいことがあるという人も実はたくさんいるのが、塩尻の何よりの資産、可能性。
- ・ただ、参加者 B が言うように、そういう人が溶け込んで新しくチャレンジしていくハードルはまだ高い。地域の人と交流できる場所・機会も少ない。こういう場の後で、誰がいるのか知り、もっとしゃべってみたいと思う。「どんな人なんだろう、どんな思いを持っているんだろう」というのを知る場を、次回以降かもしれないがやっていきたい。誰が何をしているのかを知れるようなコミュニティが大事だと思う。
- ・香川県三豊市は民間主導でまちづくりを行っており、人口が 5・6 万人と塩尻と同じくらいの規模。人材が中心市街地に流入してきており、この 2 年くらいで 10 数店舗新規出店がある。聞くと家賃が年 6 万円(言い値)とのこと。「三豊をよくしてくれる人、一緒にやってくれる人だから、利益ではなく仲間として貸している」など、地元の企業や地主が共感してやっているらしい。その方法が正しいのか正しくないのかはわからないけれど、新しく何かをやろうとしている人の固定費のハードルを圧倒的に下げているのは事実。

- ・家賃なり、何かを始めようとしたときに地元の人が応援してくれることかもしれないし、何かをやろうとしてくれる人の新しいハードルを下げることはしていきたい。誰かが何かをやろうとしたときにみんなが応援してくれる雰囲気だったり、現実的なお金の問題だったり、行政なり地域なりでできていくとよい。そういうコミュニティづくりを自分自身でやっていきたいし、そこに対して何かやりたいと外から来る人を流入するというのは僕らの仕事だと思っている。

→ (高野 GM)

- ・葉山も駒ケ根も、地元の人より外から新しくその町にきた人が引っ張っている感じがする。地域の人は排他的にするのではなく、老舗の人たちが一緒に支えてくれるという感じ。この会議も半分以上の人が外からきているということで、葉山や駒ケ根と同じようになれる可能性が高い。地元の人はいさよならから住んでいるのでいい所に気づかない。そういう意味では外から来た人がいい所に気づくという形はよい。

→ (参加者 E)

- ・塩尻の場合は地元の人がすでに先陣きってやってくれている。我々はそれにプラス α を加えていっている。そこはお互いにやっている。

→ (高野 GM)

- ・そんな感じで。ちなみに駒ケ根の時はこういった会議の後に大体居酒屋に行ける人は行って意見交換をして親しくなって、ということをやっていた。機会があれば自分も参加するのでよろしくお願いします。

■参加者 F

- ・個人的な意見。広丘に住んでいる。仕事も広丘松本方面。ここ 2・3 年は仕事で塩尻大門にちょくちょく来るようになった。広丘には 10 年以上住んではいるけれど、塩尻大門は知ってはいても来たいとは全く思っていなかった。魅力も何も感じていなかったのが正直なところ。
- ・仕事の関係で飲み会やイベント等で大門をいろいろ案内してもらって、「魅力あるじゃん」と思ったのが正直な感想。そのはずなのに、外から来る人にはその魅力が伝わっていないのは間違いない。どうして魅力を感じないのか。これまでは大門にきた時残念な気持ちになっていた。古い建物があること自体は全然よいが、手入れが行き届いていないところを見るとすごく残念な気持ちになっていた。そういうところを何とかしたいと思ってこの場にいる。具体的に何ができるのかはまだ考えていない段階。

→ (高野 GM)

- ・この仕事を 30 年くらいやっているが、古民家再生は最近のトレンド。須坂市は蔵がたくさんあったけれど老朽化したまま放っていて、どちらかというと壊して新しくしようということが当時あった。逆に隣の小布施は曳家をしたり蔵を綺麗にしたりして栗のまちを作った。長野市も蔵ゾーンの半分くらいは曳いて持ってきた。古民家再生は、塩尻にも

素材があるのなら味が出る。

- ・広丘は圧倒的に新しい街。人口も増えていくだろうと思う。大門は塩尻の古都みたいなイメージでやってみても面白いのかなと思うこともあった。

■参加者 G

- ・普段は横浜に住んでいる。去年くらいから二地域居住で宗賀に住んでいる。外からの目線なのかもしれないけれど、気になっていることが、塩尻は一つでまとまっていると思っていたが、地域ごとに分断があるということ。宗賀だとか大門だとか。一つ一つの地区で価値がないような感じとか「塩尻にはあまり何もない」ということもあるとあったけれど、実際はぶどうや漆器などすごく魅力はある。横浜にいと田舎は全部同じように見えるけれど、塩尻はそういう魅力があったり、人が魅力的だったりするということで選んでいる。
- ・地区ごとに戦うのではなく、大門は市を集約・まとめる場所というイメージがあるので、平沢、宗賀、本庄などといったところの良いものをまとめ、魅力を発信する場所になったらしい。できたらいいなと思っている。
- ・去年は月に2・3日くらいしかいなかった。最近は月1週間くらい。今月は半分以上いた。

→ (高野 GM)

- ・横浜からの距離はどのくらいに感じているか？
- 2時間半から3時間くらい。あまり距離は考えていない。そんなに遠くはない。
- ・その通り。感覚的には全然遠くない。慣れてくると横浜から日暮里くらいの距離のようなイメージになる。高速や特急もある。現実的に、完全に足を塩尻に持ってくるのは難しいけれど、現役の時に二拠点居住であればハードルは高くない。ぜひモデルになってほしい。

■参加者 H

- ・生まれ育った場所が、今えんば一くが建っている場所だった。今なお大門商店街におり、まさに老朽化が進んで手の行き届いていない古い建物で商売をやっている。
- ・個人的に興味があり、どんなことを考えている人がいるのかという興味だけで参加してみた。いい話が聞けて良かった。これから自分たちにも何ができるのか、家族で考えていきたいし、皆さんにも相談に乗っていただくとか協力していきたい。よろしくお願いします。

■参加者 I

- ・大門マルシェの運営などもしていて大門商店街にはお世話になっている。5月中にえんば一くの1階で駄菓子屋とカフェをオープンする。
- ・駄菓子屋カフェをやろうと思ったのは、まちづくり勉強会に出たりする中で、人が集まる場所、飲み会をする場所とかが大事だと思ったから。駄菓子が売りたいわけでも、コーヒーが売りたいわけでもなく、ただ顔見知りの人がみんな増えていくことからいろいろ始

まっていくなかなとおもってのこと。子どもに向けて駄菓子にした。

- ・大門マルシェは初めて 5 年たったけれど、いまいち商店街を盛り上げ切れていないというジレンマを感じる。いろいろな人が来て、活動する人も増え、毎回 10 店舗以上出るので需要はあるけれど、街を元気にするという意味では、もう少し違う視点がいるのかなと悩んでいる。駄菓子屋でそういうものの日頃版を進めたい。
- ・お金があるときはコーヒーを飲みに、ないときはただ顔を出すだけでもいいくらいのウェルカムな雰囲気で行っていききたい。そこに自分自身以外のいろんな人が来ていて、そこで話すとか、あの時話していたなという人がいる、みたいなものがあれば良いなと思っている。今日まだ話が聞けていない人もいるので、ぜひ来てください。

■参加者 J

- ・4 月から塩尻に住み始めた。会議に来た理由は街づくり町おこしに興味があり以前から活動していたのを生かせないかという思いと、会社以外でのお友達を作りたいと思ったから。今日の話聞く中で、何故まちづくりをやってきたか、普段やっているボランティアにはどうして惹かれるのかを考えるきっかけになった。
- ・今はとにかく誘われたらなんでも行く、をモットーにしている。ぜひ面白いイベント、飲みなどがあったら行くので誘ってもらえたら嬉しい。

■参加者 K

- ・大門商店街で婦人服・化粧品を取り扱っている小売業をやっている。家族総出でこの会議には参加している。大学を卒業して紳士服屋に勤めていたが、7・8 年たったところで「いつまで他人の畑を耕している。自分の畑を耕せ」と父に言われて帰ってきた。
- ・お店をもって働いているが、正直に大門を見て思うことは単純に商店街がさみしいということ。いつの時間帯に見ても人が 3・4 人、誰も歩いていないような状態が毎日続いているのが現状。これからずっとここで働いていた時に、ずっとこの状態なのは寂しい。個人として商店街活性化のために何ができるのか、と思い参加している。イベントなどはいろいろやっていただいて、やると盛り上がっているけれど、毎日人が溢れかえるようなまちにしていくなのは難しい。何ができるのだろうか、と今も課題に感じている。
- ・もう一つ、お店に来てくれる人の中には松本市やほかの市からきてくれる人がいる。お店で買い物をした後、よそにはいかずそのまま帰ってしまう。商店街の他の店を回遊するということはない。回遊してもらえるようにお店を紹介し合う等、店主同市で横のつながりを持てるような仕組み、つながりを作っていけたらいいなと思う。

→ (高野 GM)

- ・よく言うのは、その町に三つの用事があると行くという。3 つあると 3・4 時間滞在する。カフェに行ってそのほか 2 つ行きたい店があるなど。ペルソナのように対象者の人物像を考えて仕組みや仕掛けを考えていけたらよい。